福　井　市

健康ふくい２１中間評価（概要）

健康ふくい21マスコット
あじさいちゃん

発行日：平成24年3月

健康ふくい２１は、「生涯にわたり健康な生活習慣を獲得するための「一次予防」に重点をおいた施策の推進」と「親子がそろって健やかで豊かな人間として成長していけるための支援」という２つの視点をふまえ、健康づくりに関わる関係団体との連携のとれた効率的な取り組みによって、市民一人ひとりがその人らしく豊かな生活を送るための健康づくり運動を、総合的に推進していくことを目指しています。

≪計画の期間≫

この計画の期間は、平成２４年度から２７年度です。平成２３年度に中間評価を実施し、平成２７年度に最終評価を行います。

≪めざすゴールは充実した人生≫

この計画のめざす目標は「充実した人生」です。今回のアンケート調査の結果、充実感を感じている人は減少しました。私たちは、今後「充実している」と感じている人が増えるように、それぞれの６分野ごとの健康課題に応じた指標をもとに、各世代ごとの目標に向けて、保健・医療・福祉の関係団体、各領域の市民組織や団体、行政各部局が力をあわせて健康なまちづくりに取り組みます。

理念	充実した人生		
目標	若葉世代（0～14 歳の親子）	青葉世代（15～64 歳）	紅葉世代（65 歳以上）
	心身ともに健やかに育つ	**生活習慣病にならないようにする** **心の健康をはかる**	**心身ともに健康に生きる**

若葉世代（0～14歳の親子）～育つ・学ぶ～

改善した指標

- ８時前に起きる３歳児・22 時までに寝る３歳児が増加している。
- テレビを４時間以上見ている３歳児が減少している。
- 予防接種率が増加している。
- 朝食を毎日食べる３歳児・中学生が増加している。
- おやつに気をつけている親が増えている。
- 小・中学生の肥満児が減少している。
- 生後３か月まで母乳で育てている親が増えている。
- 子どもとよく遊んでいる父親が増えている。また、小・中学生の体力が改善している。
- 幼児・小・中学生の虫歯保有率が減少している。

悪化した指標

- 乳幼児健診の受診率が低下している。
- 朝食を毎日食べる小学生が減少している。
- 幼児の肥満児が増加している。
- 未成年者の喫煙率が増加している。
- 育児について相談できる人がいない、育児を楽しいと思えない母親が増加している。また、虐待の相談件数が増加している。

新たに追加した指標

- 低出生体重児の割合の減少
- 休日、夜間対応の子ども急患センターを知っている人の割合の増加
- 中学生女子のやせの減少

変更した指標

- 育児を楽しいを感じている母親の増加（４か月児）⇒「一緒にいたくない」、「泣き声を聞くのがつらい」等感じている母親の減少（４か月児）

取組みの方向

【正しい生活習慣】	【栄養・食生活】	【身体活動・運動】
○ 保育園等関係機関と連携し、乳幼児期からの正しい生活習慣が学童期における心身の健全な成長発達の基礎となることの啓発に取り組む。 ○ 妊婦健診、乳幼児健診等の意義を健診通知の段階で周知するとともに、関係機関と連携した受診勧奨に取り組む。	○ 離乳期、幼児期、学童期からの正しい食生活習慣や共食等について、子どもだけではなく保護者に対する取り組みを推進する。 ○ 乳幼児期の肥満は家庭における食生活習慣が密接に関係していることから、肥満傾向児の生活実際の把握や、家族ぐるみで食生活を改善できるよう支援に取り組む。	○ 幼児期の身体活動や遊びの意義や遊びの必要性について啓発に取り組む。 ○ 父親の育児参加を推進する。 地域や関係機関と連携したスポーツ活動づくりを支援する。
歯の健康】	【タバコ・アルコール】	【心の健康づくり】
○ 幼児期における正しい歯みがきや口腔内の手入れの方法について、保護者に対する取り組みを行う。 ○ 小・中学生に対し、虫歯治療の勧奨や歯・口腔の健康に対する意識啓発の取り組みを進める。	○ 学校、地域と連携し、タバコの害についての啓発や 20 歳代及び未成年者に対する喫煙防止に取り組む。 ○ 特に妊娠期及び乳児を持つ家庭に対し、タバコの害や受動喫煙防止の知識普及を実施する。	○ 子育て支援センター、子育て広場等の広報や周知を行うとともに、子育てなどの相談機関の情報提供に取り組む。 ○ 福祉、保健、医療、教育等の関係機関の連携体制を強化し、子どもの虐待予防と支援に取り組む。

青葉世代（15～64歳）　～巣立つ・働く・熟す～

改善した指標

- 自分の健康に関心を持っている人、年１回健康診査を受けている人が増加している。
- メタボリックシンドロームを認知している市民の割合は増加し、目標値に達している。
- 毎日朝食を食べている人は増加し、適正体重者が男女とも増加し目標値に達している。
- 60 歳で 24 本以上自分の歯を有する人、定期的に歯科検診を受けている人は増加している。
- タバコが健康に与える影響について知っている人は増加し、喫煙率も減少している。
- アルコールの適量を認識し、適量飲酒を心がけている人は増加している。

悪化した指標

- からだを動かすことを心がけている人は減少している。
- ストレスを感じている人は増加している。

改善状況が不明な指標

- がん検診受診率及び糖尿病の費用について、推計対象人口や制度の変更があり比較が困難である。
- 野菜・脂肪・食塩の摂取量について、同一統計の数値が得られていない。
- 歩数や運動習慣について、同一統計の数値が得られていない。

新たに追加した指標

- 20 歳代女性のやせの者の減少

変更した指標

- 自分の健康に関心を持っている人の増加／メタボリックシンドロームを認知している市民の割合 ⇒ メタボリックシンドローム予防の生活習慣改善を継続的に実施している人の増加
- 糖尿病の１人あたり費用 ⇒ 糖尿病予備群の増加率の抑制
- 適正体重者の増加 ⇒ 20～64 歳代男性の肥満者の減少／40～64 歳代女性の肥満者の減少

取組みの方向

【個人の健康管理能力の育成支援】	【栄養・食生活】	【身体活動・運動】
○ 働く世代におけるがん検診受診者及び特定健診受診者の増加に取り組む。 ○ メタボリックシンドローム該当者や糖尿病予備群に対する生活習慣改善のための個別支援を行う。	○ 栄養バランスのとれた簡単な食生活の取り組みを支援する。 ○ 肥満・生活習慣病予防のため、生鮮野菜の摂取などの食生活の実践を支援する。	○ 継続して運動することの重要性や日常生活の中で身体活動量を増やすことの必要性の周知と運動習慣の定着に取り組む。
【歯の健康】	**【タバコ・アルコール】**	**【心の健康づくり】**
○ 口腔の健康に関する基本的知識や具体的管理方法について普及啓発を図る。 ○ 歯周疾患検診の受診者の増加を図るとともに、歯科医師会との連携によりかかりつけ医の定着を推進する。	○ アルコールやタバコが健康に与える影響について、地域や学校等での啓発を行うとともに、関係機関と連携しながら禁煙および受動喫煙について取り組みを推進する。	○ 心の健康をチエックできる場を提供する。 ○ 心の健康づくり・うつ病予防に関する知識を普及し、相談機関の周知を行う。

紅葉世代（65歳以上）

～稔る（みのる）～

改善した指標

- 健診および人間ドック受診者は微増している。
- バランスのよい食事をしている人は微増している。
- からだを動かすことの心がけは増加し、目標値に達している。
- ８０歳で２０本以上自分の歯を有する人は増加し、目標値に達している。
- 喫煙率は減少し、アルコールの適量を認識し、適量飲酒を心がけている人は増加している。
- 要介護者の割合は減少している。

悪化した指標

- 充実感を感じている人は減少している。

改善状況が不明な指標

- 外出や歩数について、同一統計の数値が得られていない。
- 趣味活動等への参加は、同一統計の数値が得られていない。

取組みの方向

【自主的な健康管理】	【栄養・食生活】	【身体活動・運動】
○ 自己の健康状態を把握するための健診受診を啓発する。 ○ かかりつけ医での継続治療を勧奨する。 ○ 寝たきりや認知症の主な要因である循環器疾患等の疾病管理についての知識を啓発する。	○ 家族ぐるみで栄養や食事に関心を持ち、楽しみながら野菜を中心としたバランスのよい食生活の普及に取り組む。	○ 日常生活の中で簡単にできる運動の普及に取り組む。
【歯の健康】	**【タバコ・アルコール】**	**【心の健康づくり】**
○ かかりつけ歯科医での定期検診や口腔機能についての知識の普及に取り組む。	○ ＣＯＰＤや歯周病予防の啓発や、喫煙および受動喫煙が健康に及ぼす影響についての知識の普及に取り組む。	○ 趣味活動などの生きがいづくりを支援する。 ○ 認知症と思われる患者を早期発見できるしくみづくりに取り組む。

世代別重点取り組み

＜若葉世代＞

- 子どもの健全な発達支援
- 安心して子育てできるための育児支援
- 虐待の予防及び支援

＜青葉世代＞

- 健診受診の啓発
- 糖尿病予備群に対する生活習慣改善支援の強化
- 働く世代のがん検診受診勧奨の強化
- 心の健康に関する知識の普及と自殺予防の推進

＜紅葉世代＞

- 生活習慣病の重症化予防
- 生活機能の維持・向上

発行：福井市福祉保健部保健センター　★福井市城東４丁目 14-30　★0776-28-1256